



児童デイにカルタが4種類もある理由

◆興味や強みを活かして

「得意なこと、興味のあることを活かして、苦手な部分をフォローする」ことは療育の基本的な考え方のひとつです。

児童デイを利用している子ども達の中には、興味の持ち方が独特で、好きな物事については素晴らしい集中力を発揮できる子が多くいます。(そんな彼らのマニアックな知識に寄り添い、共に学んでいくことも支援者の楽しみだと感じています。)

◆やりたくなるカルタ

動物が大好きなR君は自由時間にひとりで過ごすことが多く、好んで集団遊びをすることはありませんでした。ある日、R君に試しに「動物カルタ」に誘ってみると、はじめは「やらない!」と言っていました。傍で大好きな動物の絵のカルタを並べはじめるとコソコソ参加し始め・・・

今では「やりましょう!」と言って職員を誘うようになりました。これをきっかけに遊びの幅が広がり、多くの事を学んでもらえたらと思います。



左から、ミッフィー、動物、食べ物、国旗・・・興味に応じて揃えていたら、カルタだけで4種類もありました。

Y君は国旗が大好き。国旗カルタなら誰にも負けません!

ボランティア体験の感想～

あいち福祉医療専門学校 介護福祉学科1年生の学生さんが夏休み中に「まごころ」のボランティアをされました以下感想をいただきました。

▼私は、高齢者の方とは高校の時にも実習で接したことがあるのですが、障がい児と関わるのは初めてだったので、最初は緊張しました。でも子供達から話しかけてくれたり、一緒にトランプやかるたなどをして遊ぶうちに少しずつ緊張が解けていきました。子供達と接していて、障がいがあってもとても明るい子供達が多いなと感じました。私はそんな子供達に元気をもらった気がします。今回、高齢者の方のお話もたくさん聴くことができましたし、障がいの子達のこと少しは理解できたと思っています。この経験を今後の実習や将来に生かしていきたいです。

若松 真耶

▼今回、児童デイやミニデイ、居宅介護などにボランティアとして参加させていただきました。実際に現場に立ってみて、相手の気持ちを理解することやボランティアで自分の経験不足がよく分かり、もっと知識や技術を身につけ、福祉の現場に立てるようにしたいと強く思いました。

今回の経験を生かし、学校の実習や将来に繋げられるよう頑張りたいです。このような機会を設けていただきありがとうございました。

田村 美貴

心っれづれ



ささやかな楽しみ

ここ数年健康診断を受けた後の医師との面談で、「運動した方がいいですよ」と言われ続けてきた。

テレビを観る暇はあっても、時間がないと自分に散々言い訳をしてきたが、やっとその気になった。元々、運動は苦手で40代の頃に水泳教室に行かないかと友人に誘われ、一緒に行った。ところが、友人はすぐに上達し、またたくまに平泳ぎをすいすいやっていた。私といえば5年ぐらい通ったが背泳ぎ止まりで、「私は陸上動物だ」と言ってやめた。その後はテレビ体操をしたり、一時期は気功にはまったが、ダイナミックに体は動かさない日々だった。

さて、何をやるかとおもい色々考えたが、歩くことが一番と皆が勧めるので、そんなもんかなあ?と思いつつも、数ヶ月前から実行した。とにかく、毎日ひたすら夜40分位歩く・歩く・歩く。目に見える成果がないと楽しめないと思い、歩いた日はカレンダーには花まるをつけた。1ヶ月位してから、目に見える効果は血圧と体脂肪だろと思い計ってみた。もともと痩せているので体脂肪は低い。年相応に少々高かった血圧が下がっていた。さほど信じていなかったが、やはり効果はあると実感した。

以来、時間を作りせつせと歩いているが、今もなお続けているのは、いくつか自分なりのコースを決めている中の一つに、たまたま新聞販売店の前で出会った5～6匹のネコたちの集会に出くわしたおかげと思っている。ウォーキングの途中ということもすっかり忘れいつものようにネコに話しかけていた。無類のネコ好きの私は、このネコたちに会えるのを楽しみにウォーキングに行く。

NPO法人 ワーカーズかすがい
理事長 森長 節子

ミニデイだより



学生さんとのふれあい

今年も8名の中学校や専門学校の学生さんがボランティア体験に来て下さいました。

若いエネルギーに、利用者さんの雰囲気もぐ〜んと華やぎます。

「最近の名前には、〇子はつかないんやね。」と、Kさん。まあ、本当!全員「子」がついていません。「ハイカラな名前ね〜。」「ハイカラ?？」と、はてな顔の学生さん。「あれ、ハイカラの意味わからないの?なんて言ったらいいのかしら・・・」皆さん、大笑い。

また、「あなたのおばあちゃんと私は同じ歳ね。じゃあ、私の孫のようなものだわ。」と学生さんと仲良く腕を組むMさん。学生さんが初めてするという百人一首カルタの『坊主めぐり』では、ルールを教え「ひとつゲーム覚えたね。またどこかでやってね。」と皆さん口々におっしゃいました。

学生さんからの歌や楽器演奏には、目を細めて聴かれていました。

このようにして、朝は緊張した面持ちの学生さんも、利用者さんの優しい働きかけで、すっかりリラックスして「楽しかったです!」と言って、実習を終わられました。



新聞紙のカラー面で作ったブローチ
(マニキュアをつけて綺麗に仕上げました)

日本語おもしろい

坪内忠太著 新講社より



◇「今年は台風の当たり年」というのは、おかしい。なぜか?

「当たり年」は本来、果物の収穫が順調なことを指しているものであって、そこから、いいことがたくさん起こった時に使う。りんごの当たり年、みかんの当たり年、ベストセラーの当たり年、といったように。よくないことが起こる場合は使わない。